

# 北九州市の食育を取り巻く状況

野菜を1日に2回以上食べている人の割合は、19~39歳では26%。



1日あたりの適正な食塩摂取目標量を知っている人の割合は、56.6%。



朝食をほぼ毎日食べている人の割合は、20~30歳代男性では53.3%と低い。



高齢者の低栄養傾向(BMI20以下)の人の割合は全国より多い。(北九州市21.7%、全国17.9%)



地産地消を意識して食品を購入している人の割合は68.3%。郷土は全国より少ない。(北九州市41.2%、全国60%)



毎日2回以上、栄養バランス(主食・主菜・副菜)をそろえて食べる人の割合は全国より少ない。(北九州市43.7%、全国59.7%)



食品の選び方や調理について知識がある人の割合は20歳以上では62.8%で、特に30歳代男性は36.4%と低い。



食品を捨てる量(生ごみ)を減らす取り組んでいる人の割合は62.1%。



## 3つの政策の柱と主な取り組み

柱	食育の推進による健康で生き生きとした食生活の実践	食にまつわる社会環境の整備	生産から消費までの食の循環と食の安心・安全
主な取り組み	<b>健康寿命の延伸につながる食育の推進</b> ~ライフステージに応じた健全な食生活の実践~ 生涯にわたって健康な心身を維持できるよう食生活の実践を支援します。	<b>望ましい食生活を送るための食環境の整備</b> 食品関連事業者等への支援や正しい知識を習得できる場の提供など、食環境の整備を行います。	<b>地産地消の推進</b> 地域の農林水産物や農林水産業に関する理解を深め、食への感謝の気持ちを育み、地産地消を進めます。
	<b>多様な暮らしに対応した食育の推進</b> 家庭や地域と連携、共食を通し豊かな人間形成を図ります。	<b>社会全体で食育を推進する体制の整備</b> 食に関するボランティアの養成や活動支援、企業と連携したワークバランスを推進します。	<b>食の循環や環境に配慮した食生活の実践</b> 食べられるのに捨てられる食品、いわゆる「食品ロス」の削減など、環境に配慮した食生活の実践を進めます。
	<b>食への感謝と食文化の伝承</b> 旬の食材や地域の特産物を使った郷土料理など、日本の伝統的な食文化が進めます。	<b>食の安全性の確保</b> 食品衛生、食の安全・安心に関する情報の発信や食の安全性を確保するための取り組みを進めます。	
指標と目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝食をほぼ毎日食べる者の割合</li> <li>●野菜を1日に2回以上食べている者の割合</li> <li>●1日あたりの食塩摂取目標量が8g未満であることを知っている者の割合</li> <li>●主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べる者の割合</li> <li>●ゆっくりよく噛んで食べる者の割合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●食品購入時に栄養成分表示等を参考にしている者の割合</li> <li>●健康づくりを推進する飲食店等食品関連事業者の増加</li> <li>●食生活改善推進員が取り組む活動への参加者数の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市内産・県内産を買うようにしている者の割合</li> <li>●食品を捨てる量(生ごみ)を減らすためにやっていることがある者の割合</li> <li>●健康に悪影響を与えない食品の選び方や調理についての知識がある者の割合</li> </ul>

## 計画とSDGs

「SDGs(エスディージーズ)」(持続可能な開発目標)は2015年9月の国連サミットで、全会一致で採択された、持続可能な世界を実現するための2030年までの世界の開発目標です。

「地球上の誰一人として取り残さない」ことをスローガンに17のゴールを掲げ、開発途上国のみならず、先進国も取り組むこととされています。

本計画の取り組みは、SDGsの17のゴールのいずれかにつながります。SDGsのゴール達成に向け、本計画の取り組みを推進します。

